



フレーミングセッション そのアジャイル開発は大丈夫か

- 依田 智夫(株式会社シナジー研究所 代表取締役社長)
- 牛尾 剛氏(株式会社匠BusinessPlace チーフコンサルタント)
- 長瀬 嘉秀氏(株式会社テクノロジックアート 代表取締役社長)

問題提起

- アジャイル開発の議論の前に・・・
- システム開発のスタイルはこのままで良いか
- 今何が問題なのか
- 開発スタイルを見直すための視点とは：
 - 一括請負型の契約
 - 経営のためのIT
 - パッケージ導入の限界
 - ソフトウェア産業と日本の可能性

アジャイル開発とは

- 変化に対応
- 短納期(細かいリリース)
- 生産性向上(ツール使用時)
- 要件ミス減少

日本のソフトウェア開発

- プロジェクト管理
 - 大人数開発
 - 組織化
- 品質
- テスト

アジャイル開発適用の問題点

- 契約
- 指示(派遣法)
- 教育
- 品質
- テスト
- 顧客の同席

アジャイル開発に関する検討

研究会成果報告書

QIMP研究会成果報告書 (191KB)

「アジャイル開発QIMP研究会 成果報告」の概要

- 品質についての検討
- 人材育成についての検討
- 契約についての検討

メンバー

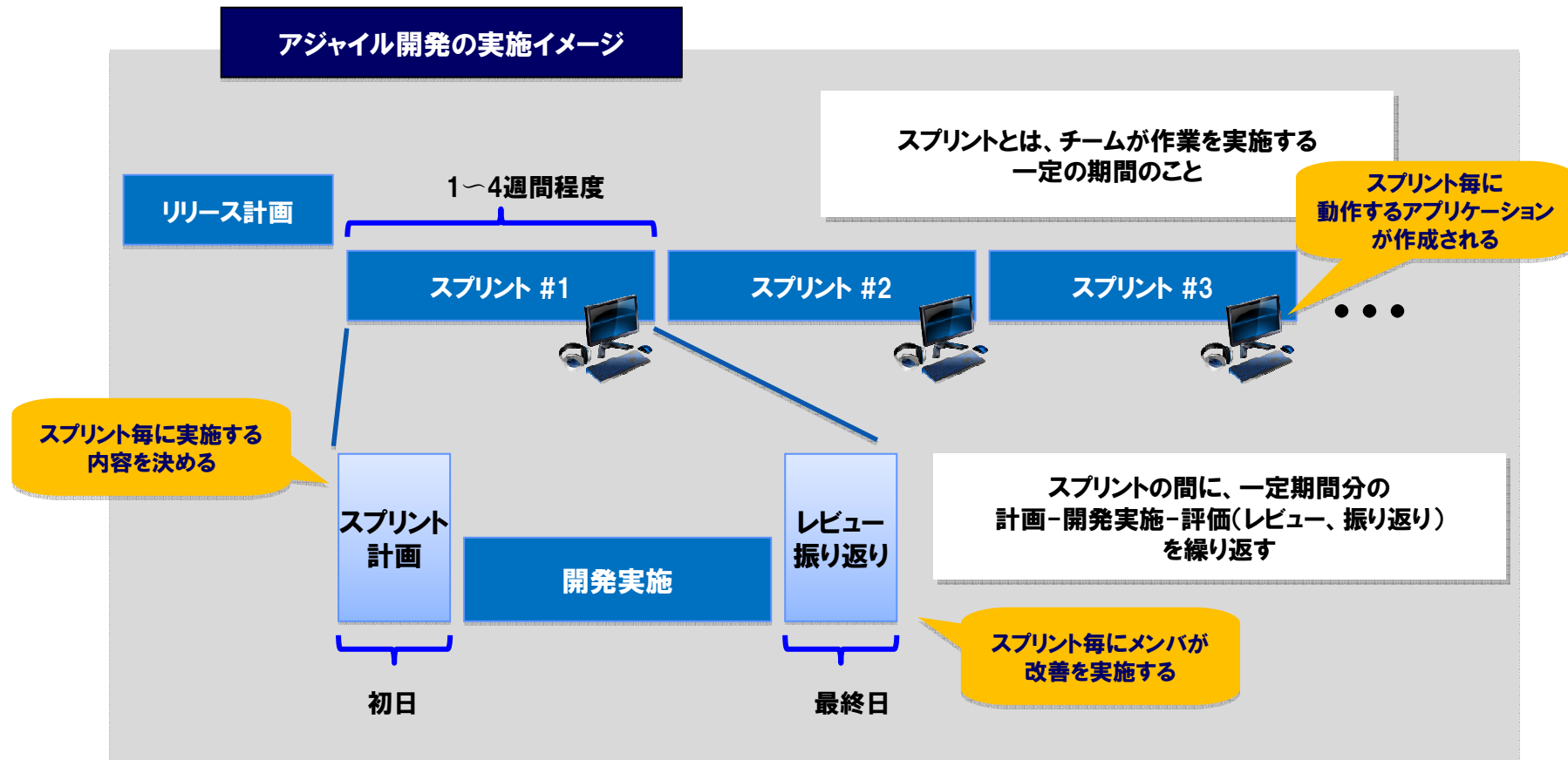
玉川 憲 (日本アイ・ピー・エム)	山中 敦 (日立製作所)
大野洋一 (日本アイ・ピー・エム)	足達 直 (日立製作所)
服部京子 (日本アイ・ピー・エム)	神部知明 (富士通ソフトウェアテクノロジーズ)
松本尚隆 (日本アイ・ピー・エム)	坂田晶紀 (富士通)
長沢智治 (マイクロソフト)	佐野建樹 (日本電気)
渡辺 裕 (野村総合研究所)	長瀬嘉秀 (テクノロジックアート)
竹政昭利 (オージス総研)	設楽秀輔 (テクノロジックアート)
菅野洋史 (オージス総研)	町田修一 (テクノロジックアート)
久田礼子 (オージス総研)	吉川陽子 (テクノロジックアート) 事務局



アジャイル開発を導入して 効果を上げるために

匠Business Place 牛尾 剛

アジャイル開発のイメージ



アジャイルの導入のために

- アジャイルの理解の難しさ
- アジャイルに足りない要素
- 組織導入に向けた動き
- E-AGILITYで実現したいこと

アジャイルの理解の難しさ

- 初めての人が勉強しにくい
- 技術者向けの情報ばかり
- 失敗しないためには？



アジャイルに足りない要素

- 前提条件 (ex.オブジェクト指向、エンジニアリング)
- 要求開発／システム企画
- プロジェクトマネジメント
- 経営層と現場をつなぐ人材



例えば、顧客を支援するものは？

企画立ち上げ／
企画の承認
課題分析
戦略／業務分析
利害関係者や
関連部署との調整
や合意形成
費用対効果の算出
ビジネス価値を出す
業務改革
意思決定権限獲得
要求を決定する
：

アジャイルチーム

顧客



開発者



テスト駆動開発

共同所有

継続的
インテグレーション

シンプルな設計

...など

全員同席

計画ゲーム

ワンチーム

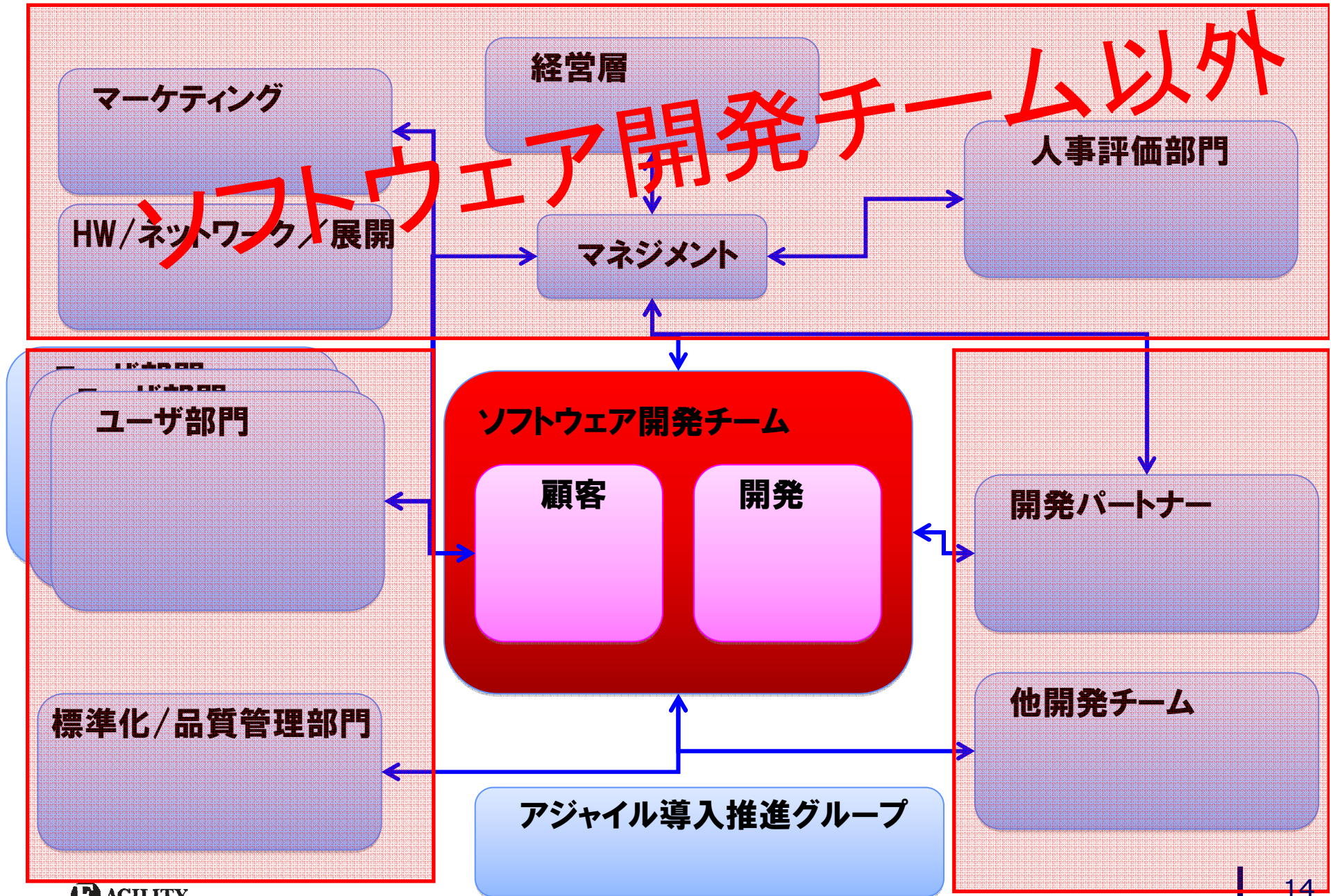
「顧客」の役割を果たすことは大変である

アジャイルの導入に向けた動き

- チームへの権限委譲と自己組織化
- 文化を創る
- 全員が実施したいわけではない
- トップと現場双方からのアプローチ
- 全体像
- バランス感覚

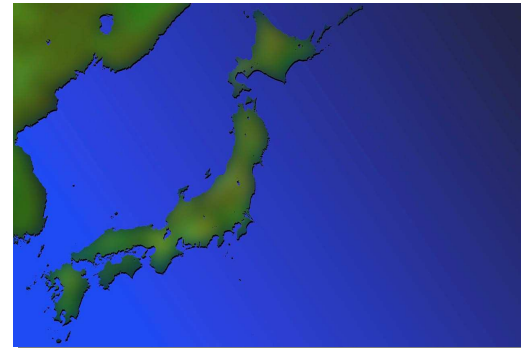


アジャイル導入時の典型的な関係部門／利害関係者



E-GAILITYで実現したいこと

- アジャイルは経験上もとても有効な手法
- ところが、現場で失敗しているとよく聞く
- ユーザ企業／ベンダも、日本の現場でアジャイル開発の導入が成功しやすくなるための活動がしたい



一括請負型の契約

- 注文(仕様、数量)が明確ならばきわめて妥当
 - 皆さんが家(普通の家、でも一生の買い物)を建てる時、住宅業者に、「リスクがあるから反復型で建てましょう」と言われて受け入れますか？
- 明確でないならば、きわめて不合理
 - 工場の生産能力を丸ごと買い取りたい。いくつ注文するかわからないが、固定金額で売って欲しい、と言われて、あなたは工場を売りますか？
- 委託者、受託者の認識の違いからしばしば悲劇が起きる
- 商習慣に埋没することは危険(不当なコスト、不当なリスク)であり、ソフト産業にとっても致命的ではないか
- 問題解決の開発スタイルとは？

経営のためのIT

- 使い倒された表現だが、ますます重要な視点となる
- 経営がITの効率性に注目する時代が来る
 - コストの発生源は、ハードからソフトへ
 - 「一律カット」的コストダウンではなく
 - きめ細かい採算性評価の必要性
 - 「一式10億円」ではなく、自社ITのどこがもうけているか、どこが不採算か、指さし確認で議論できること
 - 経営はIT経営のツールを求めている
- ITを使いこなしたい経営者の期待の応えられる開発スタイルとは？

パッケージ導入の限界

- パッケージ導入が常にコスト的に有利か？
- カスタマイズの果てに「一からつくった方が安かった」の声絶えないのは何故？
- 競争の手段としてのシステムは、開発するしかない
- パッケージに頼らずユニークなものをつくりたいユーザーの背中を押す開発スタイルとは？

ソフトウェア産業と日本の可能性

- リーンソフトウェア開発

- トヨタ生産方式

- 日本人は米国流アジャイル開発に合わせる必要はない(メアリー・ポッペンディーク)

- 「日本のソフトウェアの将来は明るい、なぜなら規律があるから」、David Frankel、MDA(モデル駆動開発)のエキスパート

- 日本人であることを活かせる開発スタイルとは？



リーンソフトウェア開発と組織改革 Mary and Tom Poppendieck 著、依田光江 翻訳、依田智夫 監訳アスキー・メディアワークス (2010/10/9)